LAMBETH CONFERENCE
God's Church for God's world

Lambeth Conferenceについてのお知らせ

Lambeth Conferenceの日程が発表されました

カンタベリー大主教は、第15回Lambeth Conferenceの日程を変更したことを発表しました。ケント州カンタベリーで開催されるこの対面会議は、2022年7月27日から8月8日までの期間で計画されています（公式会議は8月7日に終了し、8月8日に出発）。

会議は、新型コロナウイルスの大流行のため2020年の当初予定から変更されました。会議の主催者としては、新型コロナウイルスの影響を引き続き注視し、今後数ヵ月間公的な保健ガイダンスに従うことになります。

「神の世界のための神の教会 - ともに歩き、聞き、見る」をテーマとするこの会議では、21世紀の急速に変化する世界のニーズや課題に対応するために、宣教の5指標を掲げる英国国教会にとってのこのことの意味に焦点を当てます。

この会議は対面とバーチャルの両方の方式で開催される初めてのLambeth Conferenceです。2022年にカンタベリーで開催される会議に加えて、Lambeth Conferenceはコンファレンスジャーニーとして計画されており、対面集会の前、最中、後に段階的に開催されます。

2021年から始まるフェーズワンの焦点は、会議プログラムの主要なテーマと戦略上の柱の一部を紹介することに当てられています。主教と配偶者の会議コミュニティとさらに多くの英国国教会の聴衆が様々な形でLambeth Conversationに参加に招待されます。これは、オンライン、地域および地域内会議やサポートリソースを組み合わせて円滑に実施されます。

165ヵ国の英国国教会の、招待された主教と配偶者が集まるこの会議コミュニティは、文化的多様性とキリスト教の伝統を代表します。会議のバーチャルフェーズでは、お互いに会う時間が増え、会議のトピックについて話し合い、それぞれの地域や教会コミュニティの見識や経験を共有する機会が増します。

これにより、会議リソースの利用や、英国国教会の活動での今後の成果の計画策定が、可能な限り効果的なものとなります。

コンファレンスジャーニーを策定するワーキンググループが今後設置され、英国国教会を中心とした代表者で構成されます。メンバーは、ペンリス主教Emma Ineson（会議デザイングループのメンバーを兼務)、主教Anthony Poggo尊師（英国国教会事務部門カンタベリーアドバイザー大主教）、Joseph D Galgalo尊師・教授（ケニア・セントポール大学神学副学長・準教授）およびアムリッツァル主教Pradeep Samantaroy尊師（北インド統一教会）です。このグループは、カンタベリー大主教およびより広範な会議チームと協力して、世界の主要な問題と英国国教会の活動に関連する魅力的なプログラムを策定します。

Lambeth Conference CompanyのCEOであるPhil George氏は次のように述べています。

「「神の世界のための神の教会」のメッセージで、新型コロナウイルス大流行以来の新しい世界に主教および配偶者のこの会議を計画することで答えることは重大である。ウイルス大流行が引き起こした困難と混乱にもかかわらず、教会がバーチャルに会合を始めたことで私たちは大きな創造性および適応性を見出してきました。テクノロジーによりオンライン会議や関わり合いにもたらされる機会は、私たちが相互につながり、祈りを捧げ、コミュニティになるための新しい方法を提供しました。Lambeth Conferenceでの会話を発展させ届けるために、ワーキンググループと協力できることを楽しみにしています」

会議前プログラムのスケジュールと詳細は2021年に発表される予定です。

Lambeth Conferenceの最新のニュースと情報に遅れないようにするには、どんなことができますか？
会議に関する全ての最新/更新情報は、会議のウェブサイトを介して通知されます。さらに、参加登録されている会議参加者に電子メールが送信されます。ACNSとACOのソーシャルメディアチャネルも利用されています。

今後について疑問点への回答

私たちは、2022年の会議出席登録者全員のために素晴らしいイベントを開催できることを楽しみにしており、皆様のカンタベリーへお越しをお待ちしています。しかし一方で、このように残念なお知らせについて、会議出席者の皆様からご質問が多数あるかと存じます。
皆様が現在、把握しなければならない重要な最新情報がいくつかあります。
皆様が現在、把握しなければならない重要な最新情報の一部は以下のとおりです。
• 2020年会議の出席に登録済みの場合は、その登録資格は2022年まで継続します。
• 2022年までに司教の職につく新司教は登録を要請されます。
• Big Hello（ビッグハロー、会議ホスピタリティ・プログラム）の手配も可能な限り、継続します。
•全体会議の議長またはセミナーホストとして会議プログラムに協力する場合、またはEucharist（聖体式）ないしEvening Prayer（晩祷式）の執り行いを要請されている場合、2022年の企画について連絡いたします。
• スチュワードかボランティアとして会議に協力する場合、2022年に協力を要請します
•出席予定の司教の中には2022年までに退職される方もいるかと存じます。詳細については会議チームにお問い合わせください。

よくある質問

出席者

会議の開催時期はどの時期へ変更されましたか。
Lambeth Conferenceチームは、2022年の夏に英国で開催される対面式の会議（**2022年7月27日～8月8日**）に加えて、このイベントの前後に幅広い会議プログラムを実施します。詳細は後日お知らせします。

私の会議チケットは、返金されますか？
会議が2022年の英国の夏に予定変更されるため、登録料は今後のイベントに引き続き有効です。2022年のイベントへの再登録にかかる時間と手間を最小限にするために、Lambeth Conference Companyは、皆様の登録料と予約料を繰り越します。このことは、延期されたイベントを計画する上で、会議チームにとっても好都合です。
Lambeth Conference Companyは、場合によっては、このことが常に可能であるか、常に適切であると考えているわけではありません。このような場合に払い戻しを要する状況では、参加者には次の2つの選択肢があります。
1. 会議登録をそのままにして、10%の預り金（参加者1人あたり495ポンド）を残します。料金の残金は返金されます。
2. 登録をキャンセルし、全額払い戻しを受けます。しかるべき時期に再度登録します。
払い戻しは、1取引あたり15ポンドの国際電信手数料を差し引いた英ポンドで行われます。（為替の変動によっては、現地通貨で支払った金額と同じ金額を受け取ることができない場合があります）。

会議が来年開催される場合、チケット代に変更がありますか。
2022年の会議参加費は4950ポンドです。

私は主教ですが、2020年のLambeth Conferenceの後に引退することになっていました。私のチケットは来年も有効ですか？
参加登録はしてあるが、2022年の会議開催前に引退する予定の主教につきましては、返金/送金ポリシーが適用されます。引退する主教におかれましては、代わりに後任者を派遣し、登録料をこれに当てるようお願いいたします。

他の予定のために、2022年の英国の夏には参加できないと思います。どうすればよろしいですか？
会議のスケジュールを変更することは、2022年のそれぞれの計画や予定に何らかの影響が出ることは承知しています。英国国教会の重要イベントとして、2022年の英国の夏に開催されるこの新たな会議に出席するため、主教とその配偶者様には極力ご出席いただきますようお願いいたします。何らかの約束によって、これが不可能となる場合は、Lambeth Conferenceチームにご相談ください。

私はLambeth Conferenceの給付プログラムを利用しています。私のフライト手配はどうなりますか？
Lambeth Conferenceチームは、2021年に貴殿に連絡を取って貴殿の旅行計画とパスポート情報を再確認させていただき、2022年の運賃が判明次第、奨励便の予約を開始できるようにします。貴殿が独自にご旅行される場合は、適切なフライトをご予約いた

だけるよう、貴殿のホスピタリティプログラムの割り当てについて再確認いたします。

綿日は、フライトを独自に予約しました。払い戻しできますか？
Lambeth Conferenceチームは、2021年に貴殿に連絡を取って貴殿の旅行計画とパスポート情報を再確認させていただきます。貴殿が独自にご旅行される場合は、適切なフライトをご予約いただけるよう、貴殿のホスピタリティプログラムの割り当てについて再確認いたします。

ビザ取得は、いつ頃に計画すべきでしょうか？
ビザの申請に関する情報は、新たなビザ取得用招待状とともに適時お知らせいたします。

会議は、同じ会場で行われますか？
2022年のLambeth Conferenceは、引き続きケント大学とカンタベリー大聖堂の会場で開催されます。

この会議は、間違いなく2022年に行われるのでしょうか？
ウイルス大流行による不確実な状態において、大規模な国際的イベントを計画することは困難です。2022年までにこのイベントを開催するよう計画することがより現実的であると思われます。リードタイムが長くなるほど、新型コロナウイルスの状況が改善する可能性が高くなり、外国旅行やイベントのロジスティクスに関する混乱が最小限になります。会議の主催者としては、新型コロナウイルスの影響を引き続き注視し、今後数ヵ月間公的な保健ガイダンスに従うことになります。

今から2022年の新たな会議開催日までの間に何か計画はありますか？
会議チームは、2022年の会議の準備段階で会議の参加者と何らかの形で関わる方法を検討しています。しかるべき時期に会議参加者の全員に通知するとともに、ウェブサイトに最新の情報を載せるようにします。